

広報

まちづくり情報誌

小田原

city of odawara public relations

1 2008
JAN
/1月号

新年の始まり
かるたも
時代も
先取り！



を目指して

今年の抱負、まちづくりについて、小田原を代表する二人に語っていただきました。

危機管理の再認識

昨年は、防災小田原にとって特記すべき年となりました。9月には台風9号が小田原付近に上陸し、また、10月には神奈川県西部で地震が発生しました。

10月1日午前2時21分、震度5弱の揺れに眠りを覚まされたとき、「ついに来たかー」と思いました。全職員が参集し、初めて災害対策本部長を経験したとき、市長就任以来いつも頭の中にあった、雲仙普賢岳の土石流に見舞われた防災服姿の島原市長の姿を強く想い起こし、「自分もあのように陣頭指揮を執るべきだ」と身が引き締まりました。大きな被害はありませんでしたが、いろいろな意味で防災小田原が試されました。

また最近、全国的に食の問題も発生していますが、保健衛生に関する身近な問題です。危機管理の大切さを再認識し、新しい年は、安心・安全に対する行政の役割を見詰め直し、改めて市役所がどういう存在なのか明らかにして、「災い転じて市民の幸せとなる」ように、真剣に取り組んでいきます。

着実に前進を

昨年は、「初めの始まり」の年と位置づけ、市民の皆さんと協働で進めてきた事業の成果が、具体的な形となって見え始めた年でした。今年は、「初めの始まり」から一歩、二歩と、着実に前進したいと考えています。

(仮称)城下町ホールの整備と小田原駅東口お城通り地区再開発事業は、数十年來にわたる懸案事業ですので、市民の皆さんと一緒に、強力に推進していきたいと思いま

す。また、将来の小田原ブランドの評価を決定づける小田原城址の整備は、着々と工事が進んでおり、正規の登城ルートがいよいよ再現されます。さらに、景観行政は、全国でも模範的、先進的なまちづくりが大きな評価をいただいています。

市町村合併では、県西地域の2市8町で構成する「県西地域合併検討会」が年度内に具体的な結果報告をまとめる予定です。その成果は、市民の皆さんや議会にお伝えして、さらなる議論を深めていきたいと考えています。

市民とともに歩む

「まちづくりは人づくり」です。そして、

明けましておめでとございます

市民の皆さんが安心して暮らせるように、新たな気持ちで新年を迎えております。



小田原市長

小澤 良明

きれいな花を咲かせるため、
今年も市民の皆さんと一体となって
取り組んでいきます。

人づくりに教育も重要です。昨年策定した「おだわらっ子の約束」という大きな旗をさらに振り、教育行政にも取り組んでいかなければなりません。

そのほかにも、環境、福祉、中心市街地活性化など、さまざまな分野で課題があります。今年、これまで田を耕し、種まきをして、ようやく出てきた新芽を、きれいな花が咲くように、つばみをしつかり育てるべく、さらなる努力をする年と考えます。

植物が育つには水と光が必要ですが、まちづくりではそれが市民と行政に当たります。「市民とともに歩む」という気持ちを忘れず、今年も全力投球していきますので、引き続き皆さんのご理解と協力をお願いします。

さらなる発展

新しい年の始まりです。小田原にとって、2008年とはどのような年になるのでしょうか

**自治体の施策の結果が
顕著に現れる時代の到来**

昨年は、科学技術、スポーツ、芸術などさまざまな分野の世界の舞台で、日本人の活躍が印象に残りました。国内では年金問題や不当表示問題、さらには原油価格の高騰など、私たちの生活に直接的に影響を及ぼす問題が起こった一年でもありました。

このような中、小田原市議会では、昨年、統一地方選挙が実施され、5月から新体制の議会がスタートしました。

近年、我が国では地方分権が推進され、地方自治体の権限が拡大すると同時に、その責任もさらに重いものとなりました。特に、地方財政を取り巻く制度改革は、地方自治体の経営能力が試される極めて重大な転機であり、各自治体の施策展開による結果が顕著に現れる時代が到来しています。

三位一体の改革による自治体財政への影響、人口の減少、少子高齢化の進行などをはじめとするさまざまな問題は、各市町村に大きな影響を及ぼすものと予想されており、このようなさまざまな問題を従来のように一つの自治体で解決することは大変難しく、新たな枠組みによる行政運営の展開が必要だと思っています。

近隣自治体の協力が不可欠

私は、このような考えのもと、かねてから足柄平野の2市8町による広域的なまちづくりの必要性を唱えてきました。その一つの取



小田原市議会議長

大野 真一

**広域的な視点で
まちづくりを進める必要があります。**

新年明けましておめでとございませう

皆さんにとって実りある一年となることを願い、心からお慶び申し上げます。

り組みとして、「県西地域合併を検討する議員連盟」の設立に携わり、昨年は第2回総会が開催され、2市8町の議員が一堂に会し、県西地域の将来像についての活発な意見交換が行われました。

私たちの住む県西地域は、豊かな自然と温暖な気候、そして悠久の歴史の中ではぐくまれた文化など、かけがえのない財産があります。これらの貴重な財産を余すことなく活用するとともに、この地域が直面するさまざまな課題を解決し、さらに住みよいまちに発展させ

るためには、自治体間の協力が不可欠です。今後とも、市町村合併をはじめとする広域的な取り組みについては、国や県の方針、そして県西地域の各自治体の動向を把握しながら、議会や行政はもとより、住民の皆さん一人一人が自らの問題としてとらえ、活発に議論が必要でありますので、今後とも変わらぬご支援、ご協力をお願い申し上げます。本年が皆さんにとって明るく良い年でありますこと、皆さんのご健勝とご多幸を祈念いたします。

①梅万資料館(細千橋ちんりょう)

本町4-2-37 ☎23-1547
【開館】9:00~18:00【定休日】なし

②かまぼこ伝統館(丸う代)

浜町3-6-13 ☎22-9222
【開館】8:00~20:00【定休日】なし

③工芸菓子展示館(栄町松坂屋)

栄町1-16-46 ☎22-3020
【開館】8:30~18:30【定休日】なし

④薬博物館(済生堂薬局小西本店)

本町4-2-48 ☎22-2014
【開館】8:30~21:00【定休日】日曜日

⑤木象嵌ギャラリー(内田木象嵌製作所)

南町4-1-13 ☎22-7314
【開館】9:00~17:00【定休日】不定休

⑥ひもの工房(平瀬幸八商店)

浜町3-8-4 ☎22-4035
【開館】9:00~12:00
【定休日】なし(体験・見学は要予約)

⑦かまぼこ博物館(鈴廣)

風景245 ☎24-6262
【開館】10:00~17:00
【定休日】年末年始(臨時休館あり)

⑧陶彩ざらりい(松崎屋陶器店)

浜町3-1-44 ☎24-2479
【開館】10:00~19:00【定休日】日曜日

⑨寄木ギャラリー(露木木工所)

早川2-2-15 ☎22-5995
【開館】9:00~17:00
【定休日】第2土曜日、日曜日、祝日

⑩和菓子伝統館(正栄堂本店)

栄町2-1-29 ☎22-8155
【開館】9:00~19:00
【定休日】なし(臨時休館あり)

⑪漆・器ギャラリー(石川漆器)

栄町1-19-16 ☎22-5414
【開館】10:00~18:00
【定休日】なし(臨時休館あり)

⑫倭紙茶舗(江嶋)

栄町2-13-7 ☎22-2020
【開館】10:00~19:00
【定休日】水曜日(月末遅除く)

⑬かつおぶし博物館(龍堂)

本町3-2-12 ☎23-1807
【開館】8:30~17:30【定休日】日曜日

⑭ひもの体験館(カネタ前田商店)

早川2-4-3 ☎23-4741
【開館】8:00~17:00【定休日】第2水曜日

⑮とうふ工房(下田豆腐店)

板橋636 ☎22-2676
【開館】9:00~19:00【定休日】日曜日、祝日

⑯染め織り館(山田呉服店)

本町3-5-23 ☎22-4714
【開館】9:30~18:30【定休日】日曜日

⑰塩から伝統館(小田原みのや吉兵衛)

栄町2-7-38 ☎0120-181308
【開館】9:30~19:00【定休日】年始

⑱漬物・佃煮・惣菜工房(田中屋本店)

浜町1-11-25 ☎22-5545
【開館】9:00~19:00【定休日】元旦

「その他の街かど博物館」

各館とも入場無料

小田原の^いし^もつ^をを伝える

砂張ギャラリー鳴物館
「柏木美術鋳物研究所」

街かど博物館に認定

市では、市内外のかたがたが小田原の文化や職人技に触れ、街の歴史や魅力を知ることができるよう、「街かど博物館」を整備しています。平成9年度から始まった認定で街かど博物館は19館になり、まちを歩く楽しみが一層増えました。

◎産業政策課 ☎33-1519

<お店情報>

中町3-1-22 ☎22-4328

【開館】10:00~16:00【定休日】第2・4・5土曜日、日曜日、祝日

昨秋から新たに仲間入りをしたのは、代々鳴物を作ることを得意とし、その技術を今に受け継ぐ鋳物製造のしにせ「柏木美術鋳物研究所」です。

館内では風鈴、仏鈴、鈴、鐘といった鳴物を中心に花瓶も展示しており、砂張特有の長い余韻を楽しむことができます。



小田原では、北条氏の時代から日常使う鍋や茶釜などが旧町名「鍋町」で作られていました。当社は昭和の初め、中島(現・中町)に移転し、その後、(株)柏木美術鋳物研究所として銅合金を主体とする製品を作っています。鳴物の独特な音色は、砂張という銅とスズなどの合金を使っていることから出せるものです。ぜひ、当館にお越しいただき、多くのかたに実際の音を感じていただきたいですね。

インタビュー

社長
柏木 照之さん



募集

街かど博物館ファンクラブ会員も随時募集しています。詳しくはお問い合わせください。

小田原城をはじめ、真鶴や湯河原の海岸、箱根の山々、芦ノ湖や酒匂川の水辺の風景など、西さがみ地域は映像美を醸し出す資源の宝庫。

西さがみFCでは、撮影希望者と相談しながら、撮影できる場所や撮影隊の食事、宿泊施設、



ドラマ
「火災調査官 紅蓮次郎」
撮影風景

いよいよ開催 5周年イベント シネマ&トーク in 西さがみ2008

城址公園(銅門)で撮影された映画を
鑑賞しよう!

【期日】2月8日(金)

【場所】小田原コロナシネマワールド

【時間】第1部/18:00~20:35(開場17:30)

第2部/21:05~23:40(開場20:50)

※1部、2部とも同じ内容です。

【内容】

★映画「武士の一分」

(監督:山田洋次、主演:木村拓哉)

(松竹・2006年公開・121分)

★トーク 笹野高史さん
(この作品で、日本アカデミー賞・
最優秀助演男優賞を受賞)

【申込】

1月23日(金)まで(必着)
に、往復はがきに住所・
氏名・年齢・電話番号・
希望枠(1部、2部、どち
らでも可)を書いて郵送・
多数抽選。1枚で2人ま
で入場可。

※県青少年保護育成条例に
より、18歳未満のかたは
第2部への入場はできません。

〒250-8555

小田原市広報広聴室



笹野高史さん

西さがみ連邦共和国 フィルムコミッション

平成15年に発足した西さがみ連邦共
和国フィルムコミッション(西さがみFC)。
"映像文化と地域の融合を演出するま
ち"を目指し、さまざまな活動に取り組み、
5周年を迎えます。

●広報広聴室 ☎33-1261

物語を 発信し続け 5周年

ロケ風景のパネル展示

【期日・場所】

①1月11日(金)~17日(木) 湯河原町役場

②1月18日(金)~24日(木) 箱根町役場

③1月25日(金)~27日(日) 情報センター真鶴

28日(月)~31日(木) コミュニティ真鶴

④2月 1日(金)~ 8日(金)

小田原コロナシネマワールド



映画
「武士の一分」
撮影風景

さらにはエキストラ出演者の紹
介などを行っています。
設立以来、FCの協力で撮影
された作品は415。テレビな
どを見ていて、「あれ、どこか
で見た景色」と思ったら、番組
の最後に注目。「協力 西さが
みFC」の文字をチェックして
みてください。



昨年(2007)の12月1日、生涯学習セン
ターけやきで「こどもエコ★フォー
ラム」を開催しました。このフォー
ラムは、環境のためにできることを、
子どもたちが自ら考え行動してい
くためのきっかけづくりとして行っ
ている「地球こども環境アカデミー」
の集大成。
当日は、環境審議会委員の奥真美
さんの講演を聞いた後、子どもたち
が自然観察やエコキャンプなど学ん
だことや日ごろの取り組みなどをま
とめた「環境壁新聞」を発表しまし
た。また、参加していた西さがみ連邦
共和国の市長・町長にも、環境に関
する鋭い質問を投げかけていました。

小田原
彩時記

こどもエコ★
フォーラムを
開催

●環境政策課 ☎33-1472

広聴事業に意見をお寄せください

まちづくりは みんなの 声から

市では、市民の皆さんの意見や要望をまちづくりに生かすため、広聴事業を行っています。
 ◎広聴広聴室 ☎ 3312606

市の広聴事業には、「市長への手紙」や「市政アンケート」、「市政モニター」、そして市長と直接話すことができる「タウンミーティング」などがあります。

これらに寄せられた皆さんからの意見や要望は、そのつど回答し、市が行うさまざまな施策の立案に活用しています。



＜こんなご意見が寄せられました＞

Q 市立病院のトイレは和式が中心ですが、病気で体が弱った人には和式はつらいです。洋式に改修してください。

A 市立病院には和式便座のトイレが多数あり、温水洗浄器付き洋式便座への変更希望が数多く寄せられています。そこで、「市民が選ぶ予算の使い道」制度を活用して、身体の不自由な方が多く入院している病棟から順次改修したいと考えています。

入院している患者さんへの不便を最小限にとどめるよう、現在、作業方法や工程を検討しているところですので、もう少しお待ちいただきたいと思います。

⇒ 答えの後、改修作業を開始しました。今月中には各病棟に温水洗浄器付き洋式便座の設置が完了する予定です。

専用のはがきにより、市政への意見や要望を募集しています。皆さんからの意見すべてに市長が目を通し、市政の参考にしていきます。

はがきは市の施設などにあるほか、市ホームページから意見を送ることもできます。
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/voice/voice.html>

市長への手紙

「こんにちは、市長さん
～市民の声の直通便～」

市政アンケート

～おだわらQ～

皆 さんの声がよりよいまちづくりへの第一歩となります。ご意見をお待ちしています。

登録の方法など、詳しくは市ホームページをご覧ください。
<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/c-planning/odawaraq.html>

「住民票が必要だけど、郵送で請求できるの?」「サラリーマンだけど、確定申告は必要なの?」など、市役所にちょっと聞きたいな、と思ったときは、市ホームページのトップページ左側にある「スッキリ解決!よくある質問と回答」のボタンをクリック!

市役所に多く寄せられる質問とその答えが簡単に検索できるようになっています。それでも疑問が解決できないときは、ページ中の「お問い合わせははこちらへ」をクリックしてください。お問い合わせフォームから、担当課に直接質問することができます。

「日中忙しくて市役所に電話できない」「ちょっと聞きにくい」などというかたにぴったりのシステムです。ぜひご利用ください。



ご存じですか?
市のホームページにある
コーナー

【スッキリ解決!よくある質問と回答】

<http://faq.city.odawara.kanagawa.jp/>

市税滞納整理

取り組み

市税は行政サービスの重要な財源です。
平成19年度の本市一般会計歳入予算のうち、
市税の割合は約60パーセント（約343億円）を占めています。
市税の滞納は、市の財政に深刻な影響を及ぼします。
◎市税総務課 ☎331345



99パーセントの納税者

平成18年度の現年度分の市税
収納率（※）は、98・54パーセ
ントでした。つまり、100人
のうち99人というほとんどの納
税者が、きちんと市税を納付し
ているのです。

約1パーセントの滞納者には、
やむをえない事情を抱えるかた
がいる一方で、納税に誠意のな
いかたもいます。

市民の皆さんが納めた市税は、
皆さんの生活を豊かにする財
源であり、これが滞納されてし
まうと、たとえ1パーセントで
も市の財政は厳しい状況にな
ります。

※現年度分の収納率：課税した年度
内に納められた割合

収納率が向上

市では、これまでも滞納整

理強化月間を設け、夜間や休日
の訪問、電話催告や休日の納税
窓口を開設するほか、財産の差
押えを強化するなど、さまざま
な取り組みによって市税の滞納
整理に努めてきました。

この結果、市税の収納率は平
成16・17・18年度と、3年続け
て向上しています。

滞納処分の状況

再三の催告にもかかわらず、
納税に誠意のない市税滞納者
は、法律に基づいて、財産（不
動産・預貯金・生命保険・給与
など）を差押えています。

そして、差押えた後も滞納が
継続するときは、差押えた財産
の取り立てや公売を行い、その
代金を市税（滞納分）に充てて
います。

平成18年度には、不動産2件を
含む125件の差押えをしました。

行政サービスの制限

市では、悪質な市税滞納者の
氏名公表などを盛り込んだ全国
初の条例（市税の滞納に対する
特別措置に関する条例）を平成
12年度に施行しました。

また、市税を納めないかたが、
行政サービスを受けるというこ
とは、税負担の公平性に反する
場合があります。

このため、市営住宅の入居を
はじめ、補助金の交付など23事
業については、市税滞納者に対
して行政サービスを制限してい
ます。

納付が困難なときは

特別な事情により市税の納期
限内の納付が困難な場合には、
早めに相談にお越しください。
職員が事情を伺い、納税方法な
どの相談をお受けします。

納税窓口の時間延長と休日開設

●市役所の窓口を延長

市役所内の市税収納窓口（2階）は、毎週火曜日19:00まで開設を延長しています。

●アークロード市民窓口（小田原駅東西自由連絡通路内）

平日…7:30～19:00 土・日・祝日…8:30～17:00

●マロニエ住民窓口 平日・土・日・祝日…8:30～17:00

※納付書を必ずお持ちください。

納付は、便利な口座振替で

口座振替は、納期限の日に、
指定の口座から自動的に引き
落とすものです。
納付に行く時間や手間がかか
らず、便利です。
市内各金融機関・郵便局の
窓口でお申し込みください。

いつもい

っしょ

FM おだわら 78.7 MHz

みんなで盛り上げよう、地域の放送局

いざというとき、ライフラインなどとともにその重要性が高まる地域の放送局、FMおだわら。かつて「阪神・淡路大震災」という大きな地震があったのは平成7年1月。

防災意識が高まる今年は、

災害時に援護を要するかたを対象に、災害用ラジオの配布が始まる予定です。

しかし、FMおだわらの役割は災害時だけのものではありません。

身近な情報を即座に得られるFMおだわらをチェックしてみてください。

◎広報広聴室 ☎33 1261 防災対策課 ☎33 1856

なぜラジオ

そもそもラジオに着目したきっかけは、兵庫や新潟などで起きた大地震でした。地震などの大きな災害のときには、電気や水道などのライフラインはもちろ

ろ、電話も安否を確認するかたの通話やメールが増えることとで使えなくなる可能性が高くなります。

そのようなときにも確実に情

報を提供できる手段として、地域に密着した放送局、コミュニティ放送の活躍が一躍脚光を浴びたのです。

災害時には本当に役立つ？

災害時に必要なものは数多くあります。その中でも重要なものの一つと考えられているものが「情報」。皆さんも毎日何げなく、新聞やテレビ、インターネットなどで、さまざまな情報を手に入れていることでしょ

う。それらが、緊急時には途絶える危険性があるのです。

もし、停電になってしまったら、テレビやインターネットは使えません。新聞も、運んでく

る道路の状況によっては届か

ない。そんなときにこそ、ラジオの役割が光ります。

災害時には、ラジオが唯一の

情報源となる可能性があります。

災害時には、ラジオが唯一の

情報源となる可能性があります。

災害時には、ラジオが唯一の

情報源となる可能性があります。

いこともあります。その点、ラジオは電池があれば聞くことができます。

FMおだわらは、停電に備えた発電機があり、また、万が一被災して放送局の設備が使えなくなつたとしても、スタジオの外に持ち出し、放送できる設備を備えています。

しかも、放送エリアは市内だけ。広域の情報を提供しなければならぬほかのテレビ局やラジオ局に比べ、地域に密着した細かい、詳しい情報が放送できるのです。

昨年の震度5弱を記録した地震や本市に上陸した台風の際の「緊急放送」を聞いたかたも多いことでしょう。地震発生の約15分後には緊急放送に切り替え、災害情報を流し続けていました。

コミュニティ放送局のラジオとして、災害時には皆さんの生活を情報面から支えることになるでしょう。

災害用ラジオも配布

市でも、緊急災害時にはどのよう

に情報を提供すれば皆さんに届きやすいか、検討を続けています。

現在、災害時などに市から情報を伝える主な手段には、防災行政用無線、広報車、ホームページ、ケーブルテレビ、防災メール、そしてFMおだわらなどがありますが、それぞれに一長一短がある中で、最も安定している情報提供手段の一つは、やはりラジオ。

そこで、高齢や障害などで遅やかな避難が難しいかたに、災害に関する確実な情報が伝達できるように、FMおだわらの周波数を分りやすくした携帯用のラジオを配布することにしました。

対象は、75歳以上の高齢者だけの世帯や、障害者手帳をお持ちのかた。

世帯の収入により、一部負担金もありますが、高齢者では対象の約63%、障害者でも約47%と、ほぼ半数のかたから希望が

あります。

皆さんも、いざというときに備えてラジオを用意してみてください。いかがでしょうか。

FMおだわら

78.7MHz

☎35-5150

ホームページ

<http://www.fm-odawara.com/>

Eメール

fmo@fm-odawara.com

FMおだわら

78.7MHz

☎35-5150

ホームページ

<http://www.fm-odawara.com/>

Eメール

fmo@fm-odawara.com





【インタビュー】

パーソナリティー 牧いずみさん

私がパーソナリティーを担当しているのは、月～金曜日の朝7時から11時までの「モーニングガーデン」。朝の番組なので、聞いているリスナーさんが気持ちのよい朝を送れるよう、毎日明るく、元気よく心掛けています。

流行の歌や洋楽、気になるニュースのほか、地域の情報として、実際に私が街角などで集めた情報などを放送しています。

皆さんも、取材している私を見掛けたら、気軽に声をかけてください。

また、皆さん一押しの情報や実際に出演してくれるゲストなども募集していますので、「これは面白いぞ」と思ったら、番組あてにメールなどで連絡してください。それから、番組のスポンサーになってくれる企業もあったらうれしいし、みんなでどんどん小田原を盛り上げていきたいですね。



スタジオでの番組収録の1コマ。このスタジオから毎日放送しています。



FMおだわらの秋・冬の番組表。市役所内のけやき通りスタジオのほか、マロニエなどの市の窓口などで手に入ります。

災害時にその威力を発揮するFMおだわら。しかし、災害時にだけ機能する放送局ではありません。むしろ、災害放送はほ

ふだんはどんな放送を

んの一時的特別なもので、通常放送こそが本当の姿です。特定の曜日・時間だけしか放送しない放送局がある一方、1年を通して、24時間体制で放送をしています。

その内容も、朝7時から夜8時までの13時間にわたる生番組、夜8時から朝7時までは音楽やパーソナリティーそれぞれの持ち味を生かした収録番組、もちろん番組の合間には、ニュースや天気予報、交通情報、市からのお知らせなどもあつて盛りだくさん。

しかも、これらすべてが地域に密着した情報です。小田原を中心とした西湘地域出身が在住のかたで占められたパーソナリティーに加え、寄せられる情報も地元の話がほとんどです。この放送を聞いていると、今まで気づかなかった小田原の姿が見えてくるかもしれません。

放送局は皆さんが喜びそうな面白い情報と、それを的確に伝えるパーソナリティーがそろって初めて成り立ちます。

例えば、「趣味のイベントを考えているけど、どうPRしようかな」「ボランティア団体を立ち上げるので、協力者を探したい」などの個人的な活動から、自治会や老人会などの地域の活動情報、「これから始まるお買い得情報を伝えたい」といった商売の情報まで、ラジオなら提供された情報を基に、パーソナリティーが取材をしたり、実際に体験したりしながら、即座に情報発信することまでできます。もしかすると、あなたの声も電波に乗り、放送されるかもしれません。

地域にある放送局をうまく使って、小田原を盛り上げていきましょう。

うまく使って地域を盛り上げよう



市役所1階にあるFMおだわら。扉はガラス張りなので、気軽にのぞいてください。



今回、希望者に配布する「災害用ラジオ」。FMおだわらの周波数に簡単に合わせられるよう、シールが貼ってあります。災害時だけでなくふだんから聞いてください。

平成18年度一般会計決算

● 依存財源計 165億200万円 (28.5%)

● その他の依存財源 36億5,300万円 (6.3%)

● 地方消費税交付金 21億2,900万円 (3.7%)

● 県支出金 26億3,800万円 (4.6%)

● 市債 29億600万円 (5.0%)

● 国庫支出金 51億7,600万円 (8.9%)

● 自主財源計 413億9,100万円 (71.5%)

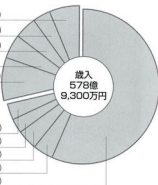
● その他の自主財源 19億8,800万円 (3.4%)

● 使用料及び手数料 17億2,800万円 (3.0%)

● 諸収入 23億9,800万円 (4.2%)

● 繰越金 27億3,800万円 (4.7%)

● 市税 325億3,900万円 (56.2%)



● 議会費、労働費、諸支出金 8億8,800万円 (1.5%)

● 農林水産業費 7億300万円 (1.3%)

● 商工費 10億7,900万円 (2.0%)

● 消防費 22億7,600万円 (4.2%)

● 教育費 48億9,600万円 (9.0%)

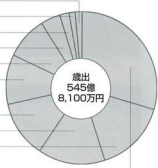
● 衛生費 57億3,700万円 (10.5%)

● 公債費 66億2,500万円 (12.1%)

● 土木費 78億4,900万円 (14.4%)

● 総務費 84億4,300万円 (15.5%)

● 民生費 160億8,500万円 (29.5%)



市の財政状況

毎年6月と12月に公表しています。今回は、平成18年度の決算状況をお知らせします。

☎財政課 ☎33-1312



昨年度の一般会計決算

歳入では、平成17年度に比べ、個人市民税などの市税が4億3,639万円、所得譲与税が6億6,213万円増加したものの、国庫支出金が11億3,667万円、市債が17億8,260万円減少したことにより、減収となりました。

歳出では、義務的経費の扶助費が児童手当などの増加で22%、公債費が0.3%増加しましたが、職員数の削減や手当の見直しにより人件費は5.6%減り、全体では28億6,843万円となり、約5億5,955万円減少しました。

投資的経費では、小田原駅東口広場整備事業の完成などにより総額47億9,432万円となり、前年に比べて34.4%、25億9,933万円減ったことから、歳出の総額は減少となりました。

市の財政運営

市では一般会計のほか、下水道や国民健康保険など特定の収入で特定の事業を行う特別会計を9会計、また、地方公営企業法の適用を受け、企業としての経済性を発揮するとともに、公共の福祉を増進するように運営する企業会計を、水道事業と病院事業の2会計で行っています。

市の財政状況は、市全体での収入が伸び悩む中、義務的経費の扶助費などは増え続けており、非常に厳し

義務的経費から見る財政の推移

義務的経費とは、支出が義務づけられていて自由に減らせない経費。人件費・扶助費・公債費がこれに当たります。支出に占めるこの経費の割合が高いと、自由に使えるお金が少なく、財政が厳しいとされます。

【人件費と職員数】



議員や各種委員、職員に勤務の対価として支払われる経費です。市では、職員数の適正化と人件費の削減に努め、ピーク時の平成6年度の2,338人から19年度までに442人の職員を減らしています。

市民一人に いくら使われているの

皆さんが納めた税金は、都市基盤や教育文化施設の整備、福祉の充実などさまざまな事業に使われています。

目的別費用	1人当たり
【民生費】福祉の充実に	81,485円
【総務費】防災対策・住民登録・市庁舎の維持管理などに	42,775円
【土木費】道路・公園・河川の整備に	39,764円
【公債費】借入金の返済に	33,563円
【衛生費】健康対策と清潔なまちづくりに	29,063円
【教育費】学校教育・社会教育施設の整備、文化財の保護に	24,804円
【消防費】火災・水害などから守るために	11,528円
【商工費】商工業・観光の振興に	5,465円
【農林水産業費】農業・水産業の振興に	3,560円
【議会費、労働費、諸支出金】その他議会の運営、労働者の福祉向上	4,500円
合計	276,507円

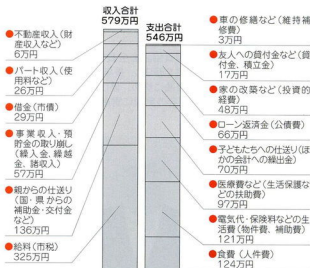
(平成19年3月31日現在の住民基本台帳による人口197,393人で計算)

市民一人当たりの市税納付額
16万4,844円

市民1人に
使われる合計額
27万6,507円

家庭に置き換えると？

決算を身近に感じていただくために、市の一般会計を家計簿に置き換えてみました。1年間の家計の収入と支出を、一般会計決算額の一万分の一とすると、次のようになります。



収入(579万円)と支出(546万円)の差額33万円は次年度へ繰り越します。

競輪収益金の使途状況

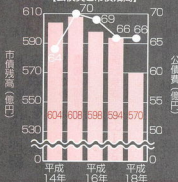


い状況にあります。
しかし、市民生活を守るため、予算にメリハリをつけ重点配分を行いながら、市債の新規発行は返済元金以内として市債残高を減少させるなど、収入と支出のバランスを考慮し健全な財政運営に努めています。
なお、平成18年度末の一般会計の市債残高は約570億円、特別会計などを含めた市債残高の合計は、約1,314億円となっています。

競輪事業の収益金

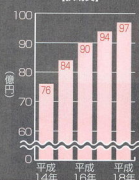
競輪事業の収益金はグラフのとおり、道路や教育施設の整備をはじめとして、市のさまざまな事業に活用しています。

【公債費と市債残高】



●公債費
特定の事業や減収を補てんするために、国や県、民間などから借りた市債の返済金とその利息です。市債には、公共施設の建設などに係る費用の世代間の負担を調整する働きもありますが、財政が厳しくなる要因でもあるので、注意が必要になります。

【扶助費】



●扶助費
社会保障制度の一端として支給される費用です。主に生活保護費や児童手当、医療費助成、就学援助費などです。少子・高齢化の進展や社会情勢などの要因により増え続けています。

平成19年度 小田原市民 功労賞はこのかたがたに!

市民功労賞は、学術・文化・福祉・産業など市民生活のさまざまな分野において功績のあったかたにお贈りしています。今年度の受賞は、次のかたがたに決まりました。贈呈式は1月14日(祝)に市民会館で行います。

◎文化交流課 ☎33-1703

【飯田隆啓さん(中村原)】

民生委員児童委員協議会会長、社会福祉協議会会長を歴任し、長年にわたり地域福祉の増進に努め、優しさと潤いのある地域社会の実現に貢献されました。



自主防災組織の充実や地域の清掃活動など、長年にわたり自治活動に尽くすとともに、今も市自治会総連合の会長として、明るく健全な地域社会づくりに貢献されています。



【富川正秀さん(本町)】

【杜箱根物産連合会】



長年にわたり伝統工芸技術の保全と育成に努めるとともに、国内外の市場への販路の拡大など、本市の地場産業振興に貢献されました。



姉妹都市チュラビスタ市との交流を中心に、市民の国際意識の醸成、外国籍住民の支援活動などを展開し、本市の国際化に大きく寄与されました。

【小田原海外市民交流会】

※この賞は、市民のかたからの寄附金を基に設置した「小田原市ほう賞基金」により運営しています。

城下町都市は、城を中心に文化や産業などが発展した歴史があり、有形・無形の地域資産があります。そこで、「城下町」という特性を生かしたまちづくりに取り組んでいる全国7つの都市(米沢市・金沢市・岸和田市・萩市・丸亀市・唐津市・小田原市)が連携し、新たな広域連携組織「城下町都市連絡協議会」を昨年11月9日、本市で設立しました。この協議会は、一昨年7月に開催した「城下町都市会議」での共同宣言に基づく7都市の関係者は、歴史的資産を生かした特徴あるまちづくりの可能性を再確認しました。

今後は、構成都市が協力・連携し、城下町都市が抱えるさまざまな課題の解決に向けて、調査・研究を行っていきます。



小田原 彩時記

城下町都市連絡協議会を設立!
「おだわらルネッサンス推進本部事業」

企画政策課 ☎33-1335

研究が進む千代寺院跡

「これまでの発掘調査から」

その①

「千代寺院跡発掘調査物語」



郷土史研究家
三津木 國雄

古い歴史を誇るわがまちおたわら。小田原城のほかにも有名な遺跡が数多くあります。特に、千代には「千代寺院跡」という相模国で建てられたものとも古い寺院のつががあります。出土している瓦から、建てられた時期は今から千年以上も前の8世紀の初めごろと考えられています。これから3回にわたり、千代寺院跡を紹介していきます。

◎文化財課 33 1715

昔

から千代の台地(東西500m・南北400m)には、考古学者や考古学の研究学徒たちが数多く訪れていた。それはこの地に古瓦や土器などが多量に散布していたからである。

千代台地について、江戸時代後期に公刊された「新編相模国風土記稿」によれば「飯泉観音堂蹟・大乗院の傍に在、飯泉観音堂元地にして字観音屋敷と云、近隣陸田の字に弥勒畑、八幡畑、堂の脇、塔の腰、堂の後等皆當時の遺名なり」とあり、古くから考古学者の注目を浴びていた。

古瓦が多く出土する千代の台地には、明治のころには礎石が30個以上残っていたというが、現存するのはわずか2個だけである。

大正13年(1924)県文化財専門委員の石野英氏が調査し、千代寺院跡は飯泉山勝福寺の元寺、弓削寺跡と発表された。その後画家の堤雄半氏(女優堤真沙子の実父)が得意の絵画で千代寺院跡を想像復元した。それによると、千代寺院跡は初期相模国分寺でその東院堂が勝福寺の元寺弓削寺と推定した。

昭和27年(1952)小泉武雄氏が宅地造成のため15m程掘り下げたところ各種瓦が多量に出土した。これを知った市文化財保護委員の立木望隆、加藤誠夫、史談会の内田武雄の各氏が千代寺院跡の発掘調査を市に依頼した。そこで市・県高教育委員会合同の「千代

庵寺址発掘調査団」が結成され、発掘調査が行われることになった。

調査担当者には寺院跡が日本大学教授・軽部慈恩氏、建築が横浜国立大学教授・大同實氏、考古が県文化財専門委員・赤星直忠氏で、これに東京大学、横浜国立大学、日本大学の学生が参加した。

調査は昭和33年(1958)3月29日から4月18日までの21日間で行われ、発掘方法はトレンチによるものとして行われた。トレンチを入れた場所は、三廻部徳次氏のみかん畑、小泉政一氏の宅地と野菜畑、小泉武雄氏のみかん畑、桃畑、野菜畑であった。

結果、全区域で縄文時代から平安時代の遺物を発掘。最下層で縄文時代中期の五領ヶ台式土器、勝坂式土器



右・石田茂作 博士
左・軽部慈恩 博士

が、また弥生時代後期の前野町式の土器と竪穴住居が発掘され、土師系では平安初期の杯と煤のついた灯明皿(直径13cm、高さ38cm)が出土し、また礎石一個と大量の瓦と瓦塔や仏像片なども出土した。

調査終了後、県より出された報告書によれば「8世紀の初めごろ、瓦を使用した建築が造られ、奈良時代を通じて存在した後、火災で失われた。寺院と決定できないが、仏像片、瓦塔などから仏殿があったことは確実」と誠にあいまいな報告であった。

しかし、寺院跡担当の軽部博士と、調査に特別参加された仏教考古学者で元東京国立博物館・奈良国立博物館の館長石田茂作博士による報告会では、「礎石が2個だけであるから、この礎石で伽藍配置を復元することはできないが、瓦の出土状況から伽藍の配置を想定すると東大寺式の伽藍配置となる」と発表され、各界から注目された。

また、千代寺院跡の発掘調査の少し前、条里の専門研究学徒といわれた大隈氏によって千代台地南面の測量調査がなされ、現在に残る天平条里と報告されている。しかもその一条線は矢作の萬石橋東側の農道、すなわちあぜ道として存続し、この線上の真北に千代台地があり、その中心は台地の東より10mほどと確認された。条里の中心線の北に伽藍配置がなされるのは諸国の国分寺で見られるところから注目に値する。

合併検討会情報 第2回委員会を開催

県西地域の2市8町（小田原市・南足柄市・中井町・大井町・松田町・山北町・開成町・箱根町・真鶴町・湯河原町）で構成する「県西地域合併検討会」の第2回委員会を、昨年11月7日に開きました。企画などの分科会や事務局から現時点までの検討状況の報告を受けた後、委員間で協議、意見交換を行いました。

委員会では「一般論だけでなく平成の大合併により合併した市町村の実態を十分に検証し、合併のメリットや課題を明示すべき」「合併の目標として中核市を目指すというビジョンが必要」「人口減少社会、少子高齢社会を迎え、合併せず単独で現行の行政サービスを維持・継続していくことが可能か、各市町がしっかりと考える必要はない」などの意見が複数の委員からありました。

合併検討会では、こうした意見を踏まえて引き続き調査・検討を進め、今年度末までに検討結果報告書を取りまとめる予定です。この報告書は、市ホームページで公開するほか、概要版を作成し市民の皆さんに配布します。

そして、これらの資料を基に来年度には、住民説明会などを開き、市民の皆さん

企画政策課 ☎33-1239



んと合併の議論を深めていきたいと考えています。

今後も合併に関する検討状況は、広報おたわらなどを通じて積極的にお知らせしていきます。

またホームページもぜひご覧ください。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/gappei/>

進んでいます

お城通り地区再開発事業

広域交流拠点整備課 ☎33-1653



〔再開発はこんな計画〕

お城通り地区の再開発事業は、現在臨時駐車場になっている小田原駅の東口に、再開発ビルと立体駐車場を整備するものです。ホテル、コンベンション施設、事務所、物販・レストランなどのサービス施設、フィットネスといった集客力のある施設のほか、調いのある「緑道」が整備されます。また、現在356台ある駐車場は約460台に増えます。

事業施行者には選ばれた㈱アーバンコーポレーションが施設の建設・運営を行います。

〔東口臨時駐車場は一時的に閉鎖〕

今年秋ごろからの建築工事により、オープン予定の平成22年4月ごろまですべてが利用できなくなる予定です。付近の栄町駐車場（460台）や城内臨時駐車場（360台）などをご利用ください。



なお、建築工事前には、埋蔵文化財調査が数か月間行われます。調査の状況により駐車できる台数が減ります。

工事などの日程は、今後、広報おたわらや市ホームページでお知らせします。

<http://www.city.odawara.kanagawa.jp/c-planning/c-develop/saikaihatsutsumi>

今月、笑顔

元気あふれる人たちの笑顔は、
見ている人たちにも
力を与えてくれるもの。
このコーナーでは、
みんなが元気になるように、
すてきな笑顔をお届けします。

「もったいない」の気持ちで伝わったと思いました」と、はにかみながら受賞の喜びを話す桜子さん。そもそも、もったいないの精神に興味を持ったきっかけは、風呂敷き。「贈り物をするとき、うちでは紙袋ではなく風呂敷きを使っています。相手の気持ちを思って、四季折々の柄の風呂敷きで包むと、よりすてきな贈り物になりますよね。そんな変幻自在に使える風呂敷きが、もったいないの精神の象徴だと思います」と、風呂敷きを日本の美しい伝統だと話す言葉から、暖かい家庭にじみ出ます。

風呂敷きをはじめ、もったいないの精神のスペシャリストのおばあちゃん、戦中・戦後とつらい日々を強く生き抜いたかた。

「食事はおいしく最後まで食べる」とと優しい目で言います。私も、レジ袋をもらわなくなると地球への気遣いをするようになりました。桜子さんには大きい存在のようです。

「食べ物の命は目には見えないけど、命あるものとして大切にすると人間に返ってくる。だから、もったいない。とは未来につながる命の



佐藤 桜子さん

白鷗中学校3年

県の「もったいない」から始めよう! 作文コンクール」中学生の部で、最優秀賞を受賞。
名前のとおり、春を呼ぶような弾む笑顔でした。

リレーなんです。辺りに一瞬静けさが漂うような、心にスジツくる深い言葉。

そして、「もったいないの精神を風化させないように伝えていくことが、私の使命だと思っています」と決意を語ってくれました。

あとけない笑顔の中に時折見せる濃とした表情には、「もったいない」の心を世界中の人に伝えたいという強い意思を感じました。



Close Up

注目の情報をお届け!

友好都市マンリー市が「ときめき国際学校事業」で表彰!

～長い歴史ではぐくんだ国際的な生徒交流～



地域の国際化や市民参加、青少年の育成のため、オーストラリア・マンリー市と市内在住の中・高校生が相互に交流する「ときめき国際学校」。

平成3年度からこれまでに、両市合わせて1,000人を超える生徒がこの学校で文化の違いや地球市民としての行動を学び、卒業生の中には、「人生が変わった!」と言う生徒もいるほど。

マンリー市も、この交流が生徒に責任感と尊敬の念を与えるものと高く評価していて、昨年、オーストラリア姉妹都市委員会からナショナル・アワードを受賞しました。

そしてマンリー市は、この素晴らしい事業を改めて同委員会に報告。昨年暮れには、「最高青少年事業」の賞を受賞したとの喜ばしい知らせが届きました。

これらは、17年間にわたる両市の青少年交流が認められた大変名誉ある賞。市だけでなく、事業にかかわった皆さんの功績が国際的に評価され、認められたということなのです。

これからも、ときめき国際学校を通して、おだわらっ子が世界に飛び立っていくことを願っています。

↑ 蠟梅